

第46回創出研究会議事録

05、4、15

事務局

日時 05、4、12(火) 11:30~14:15
場所 清水商工会議所5階会議室
出席 34人 企業20社23人(会員22)、特別会員1(東海大)オブ5(静岡市1、
静岡交セ2、発明協会1)adv1、coordi1、事務局3、

内容

1、オブザーバー紹介 静岡市経済局 池田氏、市産学交流センター 清原、相磯氏

2、中西会長の話

1) 企業の基本戦略(企業経営にとっての本質、変わらないもの)

地球全体で地殻や気候変動が起きている、地球学者の話ではマグマの動きが変わってきていて地球の回転にわずかながら変化が出ているという。

産業界でも同様であり、変化のスピードは激しくなっている。このような時に企業運営をどう考えてゆくかが重要である。以前から私が持ち続けている「企業の基本戦略」は次の三つである。

(1) コストでリーダーシップをとる

(2) 差別化

(3) 集中化

何で差別化してゆくか、・・・テクノロジーをベースにしなが、他と違うものを出す、お客さんを分析して対象を絞る。

集中化・・・プロセスイノベーションに大きなエネルギー、知恵、発想力を集中して行く。

プロダクトイノベーション・・・物作りの現場で見落とししているものは無いが、立場を変えてみる必要がある。

2) この研究会について

新しい物にチャレンジするには

・明確な目標 ・エネルギーは集中 が必須である。

テーマ選択した段階で60%は成否が決まる。そのテーマは時流にあっているか、何処にターゲットを絞るか、シルバーかヤングか、女か男か、対象の精神構造分析や価値観分析が必要である。次に残りの40%を支える要素技術は何かを見極める。

この研究会は、新しい仕事を作る、清水地域に新しい産業を起こす事にある。その視点は、「地場の産業活性化なくしては個々の企業の存続は無い」ということ強く意識して欲しい。そのためにこの場、研究会を有効に使う意識をもって欲しい。

3、情報交換

1) 会長情報

・ 北海道は国の支援が半減し大きな危機感を持っている。北海道地場産業活性化組織の一つ「テクノス研究会:(北海道の中小企業の集まり)」で生まれたものを紹介する。

廃発泡スチロールによる接着剤の開発、使用済みの発泡スチロールの処分は困っている問

題の一つである、家電メーカーを筆頭に包装材の脱発泡スチロールが進んでいるが、未だ沢山使用され解決策が無い。ソニーがリモネンで溶解しその事業化を行ったが上手くいっていない。北海道は水産王国であり魚用、その他の廃発泡スチロールが沢山出る、そこでこの研究会が官・学に利用法を持ち掛け北海道工業技術センター、北大が廃発泡スチロールからの接着剤を開発した。接着剤抜群のブロック、タイル等の用途でゲル状の接着剤である、この種のものはまだ無い。

コスト的には、嵩ばる廃発泡スチロールの回収が課題で液化法の研究を進めた、従来液化するには600位であったが300になった。300以下になれば発泡スチロールの大量発生箇所に液化設備を設置し液体回収が容易になる。

今後接着剤の利用実績を道内で作っていく、その後本州に展開の計画。

このケースは零細企業の研究会が立ち上げたものであるが、勇気を持って踏み出した結果官と学の出会いによって実現したものである。

- ・ 「関西ものづくりの会」のメンバー東西化学(株)が**携帯型デジタル水質計**を開発した。東西化学(株)は水処理剤関連メーカーであるが、プール等の水質検査(次亜塩素酸)の携帯型機器開発に2~3年トライしていたが上手くゆかなかった、東京のアース研究会の某社(電気電子関係)と共同研究の結果8ヶ月で完成、発売にこぎつけた。自社に無いものを他から取り入れた例。
- ・ **自動車のある部品の開発**、従来、紙を積層しフェノール樹脂を含浸していたある部品について、この紙を不織布に変えただけで3倍の性能UPになった。殆どの自動車会社から引き合いが来ている、視点を変えただけで製品が大きく変わった例である。
中小企業の参考例だ。やる気が合って、テーマの選択が間違っていなければ事業化はそれほど難しくは無い。

2) 会員意見交換

- ・ 駿河湾循環型プロジェクト(3/4の中間発表会に関連して)についての意見、質問等があった。
 - * 今後の運営の組織
 - * 人、金、時間、情報の無い中小企業の参加の仕方
 - * 何のテーマに参加するか考えている。それ以外の事項
- ・ 中国で「なまこ」の養殖をやっている知人がいる、その者の話では沿海の生簀にほっておくだけエサはやらない、海底の泥を食べて成長する。なまこは海のミミズというらしい、海底を浄化する。折戸湾の浄化にどうか。
- ・ 折戸湾浄化に、徳山高専のマイクロバブル技術の検討をしているが、海底のヘドロを10m試掘について県との調整が付かずそのままになっている。(超音波で計ると海底堆積物は9m位ある)又東海大と由比の藻場醸成実験もやっている。この二つを組み合わせると折戸湾を考えて行きたいが。
- ・ 梅の果肉を除去する試作機を作った。皆さんに見てもらって用途のアイデアを頂きたい。

以上